

亜リン酸施用と葉かきによる水生カラーの増収について

～生産の安定で産地の維持～

新井 聡（農業水産局農政部園芸農産課
前・海部農林水産事務所農業改良普及課）

【2022年7月執筆・2024年2月掲載】

【要約】

亜リン酸施用と葉かきが水生カラーの収量に及ぼす影響について検討した。亜リン酸を5月及び9月に施用した結果、採花本数が増加するとともに上位等階級が増加した。葉かきを12月、1月、2月に実施した結果、2月までは慣行区より採花本数が増加したが、3月は慣行区とほぼ同等となり、葉かきの実施にあたっては1月までとすることが良いと考えられた。

1 はじめに（目的）

水生カラーは主に11月から5月に流通する切り花として、愛西市で生産され、そのほとんどが早尾花卉組合を通じて出荷されている。近年、夏期の高温、組合員の高齢化、世代交代などで、組合のなかでも収量や品質の個人格差が大きくなった。そこで、近年、生育促進の効果が報告されている亜リン酸の施用や、一部の組合員で採光と風通しの改善を目的に行われている葉かきが水生カラーの収量や品質に及ぼす影響について検討した。

2 調査内容及び調査方法

(1) 調査内容

ア 調査品種 カラー「ウエディングマーチ」

イ 調査規模 1区48株

ウ 耕種概要

台刈り 5月

かけ流し（冷却） 6月～9月 午前5時～午後7時

かけ流し（保温） 11月～3月 午後5時～翌午前7時

ビニール被覆 10月～5月

エ 試験区の構成

区名	処理内容
亜リン酸区	5/26、9/6に亜リン酸を施用
葉かき区	12/21、1/25、2/24に葉かき
慣行区	

亜リン酸肥料は商品名「亜リン酸粒状1号」を用い、施用数量は30g/m²とした。
葉かきは花芽のある葉を1～2枚残し、採花後の葉を鎌で刈取りした。



葉かき（矢印）

オ 調査内容

採花週、収量、株高、等階級

3 調査結果

10月21日の亜リン酸区では、慣行区に比べ草姿が株高で10cm程度大きくなる傾向を示した(図1、2)。採花は亜リン酸区が11月から始まり、葉かき区及び慣行区は12月から始まった。採花本数は亜リン酸区が最も多く推移した。次いで葉かき区が2月まで慣行区より多く推移し、3月は慣行区と同等の採花本数となった。慣行区は2月までは最も少なく推移した(図3)。11月から3月までの累計採花本数は亜リン酸区が最も多くなり、次いで葉かき区となり、慣行区が最も少なくなった。階級別にみると2L及びLの採花本数は亜リン酸区で最も多くなった。Mの採花本数は葉かき区が最も多くなり、亜リン酸区は、L以上が56%、S以下が19%、葉かき区は、L以上が27%、S以下が29%、慣行区は、L以上が26%、S以下が34%となった(図4)。粗収益は亜リン酸区が最も多くなり、次いで葉かき区となった。亜リン酸区は亜リン酸代を考慮しても慣行区よりも501千円増の粗収益となり、所得増加率は49%となった。葉かき区の所得増加率は9%となった(表)。



図1 亜リン酸区



図2 慣行区

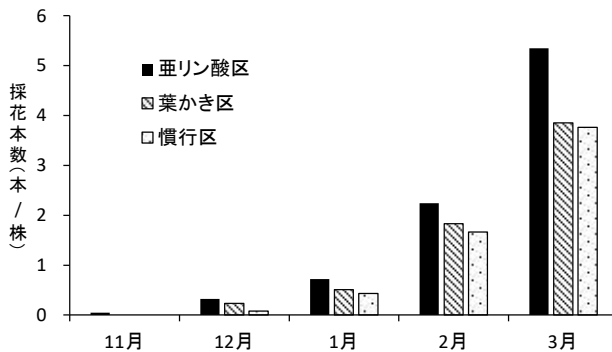


図3 月別採花本数

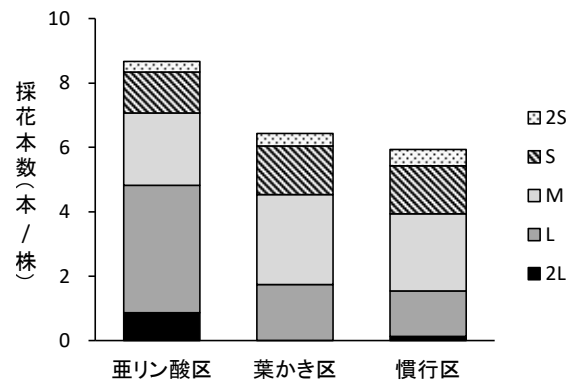


図4 採花本数(11~3月累計)

表 カラー「ウェディングマーチ」の葉かきと亜リン酸施用による経済性(10a当たり)

区名	生産数量 ¹⁾					階級別粗収益 ²⁾					粗収益 千円	亜リン酸代 千円	粗収益－ 亜リン酸代 千円	所得 増加率 %
	2L	L	M	S	2S	2L	L	M	S	2S				
	本	本	本	本	本	千円	千円	千円	千円	千円				
亜リン酸区	3,130	14,243	8,061	4,617	1,174	172	741	411	194	42	1,560	37	1,523	49
葉かき区	0	6,281	10,034	5,438	1,379	0	327	512	228	50	1,116		1,116	9
慣行区	494	5,082	8,612	5,365	1,835	27	264	439	225	66	1,022		1,022	0

1)10a当たりの株数を3,600株とした。

2)2Lを55円/本、Lを52円/本、Mを51円/本、Sを42円/本、2Sを36円/本とした。

4 まとめ (考察)

亜リン酸区は累計採花本数及び2L及びLの上位等階級が最も多くなった。これは、亜リン酸施用により株が旺盛に生育し、夏期の株の消耗を最小限にしたことにより、花茎の発生を促進し、採花が最も早く始まるとともに、M以下の下位等階級が上位等階級へと品質向上が図られたためと考えられた。葉かき区においては、2月までは慣行区より採花本数が多くなったが3月は慣行区とほぼ同等となった。これは3月に入り日照時間が長くなり、2月末に行った葉かきによる採光の向上による生育及び開花促進効果が小さくなったことが主な要因と推察され、葉かきの実施にあたっては1月までとすることが良いと考えられた。